

はくほう会医療専門学校赤穂校 自己点検・自己評価表

評価項目			令和6年度 自己点検・自己評価結果			
大項目	中項目	評価対象項目(質問事項)	当てはまる	やや当てはまる	当てはまらない	
I 教育理念・教育目的		(1) 教育理念・教育目的は、自養成所の教育上の特徴を示している。	○			・教育理念及び教育目標、卒業時点で到達すべき資質等を設定し、学生便覧に掲載して学習の指針となるよう対応している。教育内容については履修が必要な科目を学生便覧に掲載するとともに、学生へ説明している。教育環境については明示できていないため、現在検討中。
		(2) 教育理念・教育目的は、法との整合性がある。	○			
		(3) 教育理念・教育目的は、学生にとって学習の指針になるように具体的に示している。	○			
		(4) 教育理念・教育目的は、実際に学生の学習の指針になっている。	○			
		(5) 教育理念・教育目的は、養成する療法士の質を保证するためにどのような教育内容を設定しているかを述べている。	○			
		(6) 教育理念・教育目的は、養成する療法士の質を保证するためにどのような教育方法をとるのかを述べている。	○			
		(7) 教育理念・教育目的は、養成する療法士の質を保证するためにどのような教育環境をとるのかを述べている。			○	
		(8) 教育理念・教育目的は、専門学教育、学生観について明示している。	○			
		(9) 専門学教育、学生観は、実際に教員の教育活動の指針となっている。	○			
		(10) 教育理念・教育目的は、養成する療法士が卒業時点においてもつべき資質を明示している。	○			
		(11) 卒業時点にもつべき資質は、社会に対する医療の質を保证するのに妥当なものとなっている。	○			
II 教育目標		(12) 教育目標は、教育理念・教育目的と一貫性がある。	○			・目標は学科毎に設定して最終到達目標を設定しており、到達レベルと内容が対応できている。
		(13) 教育目標は、設定した教育内容を網羅している。	○			
		(14) 教育目標は、最上位の目標として、教育活動のゴールが読み取れるものとなっている。	○			
		(15) 教育目標は、目標内容と到達レベルが対応している。	○			
		(16) 教育目標は、具体的で実現可能なものとなっている。	○			
		(17) 療法者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定している。	○			
		(18) 卒業後の継続教育の考え方を示した上で、教育目標を設定している。	○			
教育課程経営者の活動		(19) 教育課程編成者と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育評価との関連性を明確に理解している。	○			・教職員には入職時に説明して活動を行っている。
		(20) 教育課程編成者と教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている。	○			

評価項目			令和6年度 自己点検・自己評価結果			
大項目	中項目	評価対象項目(質問事項)	当てはまる	やや当てはまる	当てはまらない	
III 教育課程経営	教育課程経営者の活動	(21) 療法士専門学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	○			・学力面及び資質面において必要となるものを理解したうえで編成を行っている。
		(22) 学修の到達について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	○			
		(23) 学生の成長について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	○			
	科目 単元構成	(24) 明確な考え方と根拠をもって科目を構成している。	○			・理学療法士及び作業療法士として必要となる科目を、国が提示している教育課程をもとに構成している。また養成所の特徴として、JATIやレクリエーションインストラクターの資格取得カリキュラムを設定している。
		(25) 明確な考え方と根拠をもって単元を構成している。	○			
		(26) 科目と単元の構成の考え方は教育理念・教育目的と整合性がある。	○			
		(27) 構成した科目は療法士を養成するのに妥当である。	○			
		(28) 構成した科目は養成所の特徴をあらわしている。	○			
	教育計画	(29) 単位履修の方法とその制約について教員・学生の双方がわかるように明示している。	○			・学生便覧に掲載するとともに、ガイダンスにて説明を実施している。支援及び科目配列も適宜行っている。
		(30) 単位履修の方法は学生の単位履修を支援するものとなっている。	○			
		(31) 単位履修制の考え方を踏まえつつ療法士になるための学修の質を維持できるように、科目の配列をしている。	○			
	教育課程評価の体系	(32) 単位認定の基準は療法士に必要な学修を認めるものとして妥当である。	○			・単位認定は指定規則に則って実施している。評価体系及び倫理規定も備えている。
		(33) 単位認定の方法は療法士に必要な学修を認めるものとして妥当である。	○			
		(34) 他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている。	○			
		(35) 教育課程を評価する体系を整えている。	○			
		(36) 評価結果の活用における倫理規定を明確にしている。	○			
	教員の教育・研究活動の充実	(37) 教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している。	○			・担当科目の配分は適切に行っている。また自己研鑽として研修等を受講しやすい環境整備を整えている。相互研鑽については頻度は少ないものの勉強会等を行っている。
		(38) 教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えている。	○			
		(39) 教育課程の実践者である教員が自ら成長できるよう、自己研鑽のシステムを整えている。	○			
		(40) 教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている。		○		
学生の療法士実践体験の保障	(41) 臨床実習施設は養成所の個別の教育理念・教育目的、教育目標を理解している。	○			・育理念・教育目的、教育目標、指導者の役割については実習指導者会議にて説明している。学習支援体制についても施設側と連携を図って対応している。	
	(42) 臨床実習施設は学生の実践学習を支援する体制を整えている。	○				
	(43) 臨床実習指導における学生の学びを保証するために、臨床実習指導者の役割を明確にしている。	○				

評価項目			令和6年度 自己点検・自己評価結果			
大項目	中項目	評価対象項目(質問事項)	当てはまる	やや当てはまる	当てはまらない	
	学生の療法士実践体験の保障	(44) 臨床実習指導における学生の学びを保证するために教員の役割を明確にしている。	○			・実習担当者を設定して対応している。権利の尊重に関しても講義等で教授している。事故関連はリスク管理の指導で対応している。
		(45) 臨床実習指導者と教員の協働体制を整えている。	○			
		(46) 学生から治療を受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示している。	○			
		(47) 対象者の権利を尊重する考え方に基づいて、学生への指導を計画的に行っている。	○			
		(48) 臨床実習において学生が関係する事故を把握、分析している。	○			
		(49) 学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っている。	○			
IV 教授・学習・評価過程	授業内容と教育課程の一貫性 療法士学生としての妥当性 授業内容間の関連と発展	(50) 授業の内容は、教育課程との関係において、当該学生のための授業内容として設定されている。	○			・シラバスを作成する段階で整合性や妥当性の確認を行っている。また学科毎に重複講義棟の内容調整を行っている。
		(51) 授業内容のまとまりの考え方を明確に述べている。	○			
		(52) 授業内容のまとまりの考え方は、科目目標との整合性をもっている。	○			
		(53) 授業内容のまとまりは教育内容として妥当性がある。	○			
		(54) 授業内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている。	○			
	授業の展開過程	(55) 授業形態(講義、演習)は授業内容に応じて選択している。	○			・各講師に内容の設定を行い、学科毎に内容を確認しているが、指導技術の考え方は明示できていない。講義の内容によっては学科教員との協力体制を敷いている。
		(56) 授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践している。		○		
		(57) 授業の展開過程の他に、学生の実習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している。	○			
	目的達成の評価とフィードバック	(58) 学生に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている。	○			・年間のスケジュールの中で、学生による授業評価を取り入れている。評価内容を各講師にフィードバックして問題となる点については改善するよう指導している。教育目標の達成状況も多面的に捉えている。単位認定については、学生便覧にて評価基準を明示し、年度末に学科毎及び教務全体で内容を検討している。
		(59) 評価計画を立案し実施している。	○			
		(60) 評価結果に基づいて実際に授業を改善している。	○			
		(61) 学生および教育活動を多面的に評価するために多様な評価の方法を取り入れている。	○			
		(62) 教育目標の達成状況を多面的に把握している。	○			
	学習への動機付けと支援	(63) 学生に単位認定のための評価基準と方法を公表している。	○			・指導及び支援については教務として確認及び検討を行っている。
(64) 単位認定の評価には公平性が保たれている。		○				
(65) シラバスの提示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性がある。		○				
(66) シラバスの提示や学習への指導は、学生の学習への動機づけと支援になっている。		○				

評価項目			令和6年度 自己点検・自己評価結果			
大項目	中項目	評価対象項目(質問事項)	当てはまる	やや当てはまる	当てはまらない	
V 経営・管理過程	設置者の意思・指針	(67) 養成所の管理者は教育課程経営についての考え方を明示している。	○			・教職員に対して教育課程経営・評価・管理運営について明示している。その考えと意思は一貫性があり、教職員にも考え方を伝達して理解させるよう努めている。
		(68) 養成所の管理者は教育評価についての考え方を明示している。	○			
		(69) 養成所の管理者は養成所の管理運営等についての考え方を明示している。	○			
		(70) 明示した管理者の考えと、設置者の意思とは一貫性がある。	○			
		(71) 教職員は養成所の設置者と管理者の考え方を理解している。	○			
	組織体制	(72) 養成所の組織体制は、教育理念・教育目的を達成するための権限や役割機能が明確になっている。	○			・学校全体及び各学科毎に業務担当を設定している。また定期的に全体会議及び学科会議を開催することで意思決定、反映、周知がなされている。整合性においては問題ない。
		(73) 意思決定システムが明確になっている。	○			
		(74) 意思決定システムは組織構成員の意思を反映できるように整えられている。	○			
		(75) 意思決定システムは決定事項が周知できるように整えられている。	○			
		(76) 組織の構成と教職員の任用の考え方と、教育理念・教育目的達成との整合性がある。	○			
		(77) 教職員の資質の向上についての考え方と対策には教育理念・教育目的達成との整合性がある。	○			
	財政基盤	(78) 財政基盤を確保することについての考え方が明確である。	○			・財政基盤については、年度末の振り返り及び次年度の事業所計画として教職員に通知して活用されている。教職員からの意見は設置者へ伝達手段を設定しているが、すべて反映できている状態ではない。
		(79) 財政基盤を確保することについての考え方は学習・教育の質の維持・向上につながっている。	○			
		(80) 教職員は、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解している。	○			
		(81) 教職員のそれぞれの観点からの財政についての意見は、経営・管理過程に反映できるようになっている。		○		
	施設設備の整備	(82) 学習・教育環境の整備について管理者の考え方を明示している。		○		・整備における管理者の考え方は明示できていないが、考え方に基づいて実施している。また専門教育に必要な物品や設備についても適宜対応している。医療の発展等に対応した施設設備の整備・改善、福利厚生施設設備については一部実施しているものの十分ではないが、意見を反映して整備するよう努めている。
		(83) 管理者の考え方に基づいて整備計画を立案し、実施している。	○			
		(84) 療法士の専門職教育に必要な施設整備を計画的に整備している。	○			
		(85) 医療の発展や学生層の変化に合わせて、施設設備を整備・改善している。		○		
		(86) 養成所が設置されている地域環境との関連から学生および教職員にとっての福利厚生の施設設備の整備を検討している。		○		
		(87) 学生が学生生活を円滑に送り、教職員が職務を円滑に遂行できるように施設設備を整備している。	○			
学生生活の支援	(88) 学生が入学後に学修を継続できる支援体制を多角的に整えている。	○			・すべての学生が対象ではないが、法人独自の奨学生制度を設けて支援を行っている。	
	(89) 学生が活用しやすいように学生生活の支援体制を整えている。	○				
	(90) 支援体制は、実際に学生に活用され学修の継続を助けている。	○				

評価項目			令和6年度 自己点検・自己評価結果			
大項目	中項目	評価対象項目(質問事項)	当てはまる	やや当てはまる	当てはまらない	
V 経営・管理過程	養成所に関する情報提供	(91) 教育・学習活動に関する情報提供を関係者(保護者等)に行っている。	○			・成績報告書及び広報誌を作成し、年度末に保護者に送付している。外部へのアピールとして高校訪問やガイダンス参加、SNSやホームページ等で実施している。
		(92) 関係者(保護者等)への情報提供は関係者から協力・支援を得ることにつながっている。	○			
		(93) 療法士を養成する機関としての存在を十分にアピールする広報活動を適切に行っている。	○			
		(94) 広報の内容は社会的説明責任を果たすものとなっている。	○			
	養成所の運営計画と将来構想	(95) 養成所は明確な将来構想のもとに、運営の中・長期計画、短期計画、年間計画を立案している。			○	・将来的な構想や目標はあるものの、詳細な目標設定はできていない。
		(96) その実施・評価は将来構想との整合性をもっている。			○	
	自己点検・自己評価体制	(97) 自己点検・自己評価の意味と目的を理解している。	○			・自己点検及び評価についての意味、目的、知識、方法は理解しており、定期的に自己点検を実施している。またフィードバックを行うことで維持や改善に活用している。
		(98) 実際に自己点検・自己評価を行うための知識と方法を明確にもっている。	○			
		(99) 自己点検・自己評価体制を整え、運用している。	○			
		(100) 自己点検・自己評価は、養成所のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックするように機能している。	○			
		(101) 自己点検・自己評価体制は、養成所の教育理念・教育目的、教育目標の維持・改善につながるように機能している。	○			
VI 入学	(102) 教育理念・教育目的との一貫性をもって入学者選抜についての考え方を述べている。	○			・入学者選抜は学校独自のものとして設定して実践している。また分析及び検証も行っている。	
	(103) 入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性および教育効果の視点から分析し、検証している。	○				
VII 卒業・就職・進学	(104) 卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に行っている。	○			・卒業時の到達目標を設定した上で計画と分析を行っている。また就業状況の把握と分析も行っている。しかし卒業時は把握できているが、その後の情報交換等は一部しか実施できておらず、統計的な整理は困難な状況である。	
	(105) 卒業時の到達状況を分析している。	○				
	(106) 卒業生の就業・進学状況を分析している。	○				
	(107) 卒業生の到達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目的、教育目標との整合性がある。	○				
	(108) 卒業生の就業先での情報を把握し、問題を明確にしている。	○				
	(109) 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。			○		
	(110) 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。			○		
(111) 卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。			○			

評価項目			令和6年度 自己点検・自己評価結果			
大項目	中項目	評価対象項目(質問事項)	当てはまる	やや当てはまる	当てはまらない	
Ⅷ 地域社会／ 国際交流	地域社会	(112) 社会と連携に向けて地域のニーズを把握している。	○			・地域のニーズを把握した上で、健康教室や公開講座を開催するとともにボランティア活動を行っている。また民報等を活用して学生の学習内容を発信している。地域の諸資源活用については、デイサービス等で学生同行のもとで臨床経験を行わせている。
		(113) 教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている。	○			
		(114) 養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段をもっている。	○			
		(115) 養成所から地域社会へ情報を発信する手段をもっている。	○			
		(116) 養成所が設置されている地域の特徴を把握している。	○			
		(117) 地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている。	○			
	国際交流	(118) 国際的視野を広げるための授業科目を設定している。		○		・外国語(英語)の講義はあるものの、現時点では環境及び体制の整備も含めて国際交流への対応は出来ていない。
		(119) 国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている。			○	
		(120) 海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えている。			○	
		(121) 留学や海外において医療専門職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制を整えている。			○	
Ⅸ 研究		(122) 教員の研究活動を保証(時間的、財政的、環境的)している。	○			・教職員の研究活動の制限はなく、実際に研究活動を行っている。また修士や博士を取得している教職員がいるため、指導や協力体制も整っている。
		(123) 教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている。	○			
		(124) 研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援しあう文化的素地が養成所内にある。	○			